

多様なゴルファーがプレーしやすい環境を—— リタイア防止へ工夫を凝らす 朝日コーポレーション



東我孫子カントリークラブ(千葉県)など6コースを運営する株式会社朝日コーポレーションでは、高齢者や女性、障がいがある方など多様なゴルファーが来場しやすい環境を整えている。どのような取り組みを、どのような思いで実施しているのか。同社代表取締役社長で一般社団法人日本ゴルフ場経営者協会理事長でもある手塚寛氏に聞いた。

Tee It FORWARD

飛距離に合わせて、パーオンを！
さらにバーディーチャンスを！！

～当コースは、飛距離にマッチしたティから楽しめます。～

ティのガイドライン

ドライバーの 飛距離 (y)	使用ティ	総距離 (y)
230y～	CPティ ※競技時のみ使用	6,700～6,900
210y～	青ティ ※使用时申請必要	6,200～6,400
190y～	緑ティ	5,800～6,000
170y～	白ティ	5,200～5,400
150y～	水色ティ	4,400～4,600
～149y	オレンジティ	3,500～3,700

飛距離に合ったティをお選びください。

総務・フェローシップ委員会

性別・年齢にかかわらず、ご自身の飛距離に応じたティの使用を推奨

—— 朝日コーポレーションのゴルフ場では年配の方や女性に優しい取り組みをいくつか実施していると聞きます。具体的にはどのようなことをされているのでしょうか。

手塚 ひとつは距離の短いティーイングエリアを新たに設置したことです。10年ほどかけて徐々に増えていき、ほぼ完成域にきています。うちの場合はティーイングエリアを5カ所ほどつくっており、一番前で一般的にレギュラーティーと呼ばれるところの70%程度の距離です。高齢になってゴルフをリタイアした理由のひとつに「飛ばなくなってパーオンができなくなったからつまらない」ということがあると聞きます。そういうマイナス面を解消できないかとティーイングエリアを前に出すことに取り組みしました。それも、ただラフを刈ってティーマークを置くのではなく、ほかのティーイングエリアと同じような形でつくっています。

—— 各ティーイングエリアの名称も工夫しているようですね。

手塚 レディースティーとかシニアティーという呼び方はやめてティの色で呼んでいます。短いほうから



手塚 寛 (てづか・ひろし) 1957年生まれ。2001年に株式会社朝日コーポレーションを設立。現在は同社代表取締役社長を務めるほか、一般社団法人日本ゴルフ場経営者協会理事長、ゴルフ場共済協同組合理事長の任に就いている。

オレンジ、水色、白、緑、青。もうひとつ後ろに置けるコースは黒も設置しています。白が元々一番前にあったレディースティーで、オレンジと水色が新しくつくったものになります。赤やシルバーはどうしてもレディースやシニアというイメージがあるので使っていません。性別や年齢で区別するのではなく、自分の飛距離に応じて選んでいただければと考えています。

—— トイレにも心遣いが感じられます。

手塚 男性用の個室にもサニタリーボックスを置いています。紙パンツをつけてプレーされる方もいますが、男性用のトイレには捨てる場所がなかった。排せつで困っている方が恥ずかしいとか、周囲に迷惑をかけるからゴルフに行くのをやめるのではなく、そのような方でも大丈夫ですよという環境をつくってあげたいという思いです。

—— そういう思いに至ったきっかけは何かあるのでしょうか。

手塚 2年前に亡くなったキャスターの小倉智昭さんが闘病中に排せつに苦勞されていたこと、そんな中でもゴルフをして男性用トイレにもサニタリーボックス

が必要だということを発信されていました。それに共鳴したことがひとつ。それに私自身が数年前に大病を患いまして、3か月ほど昏睡状態に陥っていました。徐々に回復してコースに出られるようになったのですが、体が元通りにはならなかった部分もあります。すると、元気だったころには見えなかったものが見えてくるわけです。そんな経験から、障がいがある方や年配の方にもっと配慮があればコースに来やすくなるのではないかと考えたのです。コース内のトイレも増設しました。尿意が近くなった方もいますから喜ばれています。また、ティーイングエリアに上がる傾斜を緩やかにしたり、階段がある場合は手すりを設置するようにしています。



男性用トイレにもサニタリーボックスを設置したり(左)、コース内のトイレを増設したりするなど(中央:こぶしGC No.3、右:守礼CC No.7)、障がいのある方や高齢者の方への配慮がなされている



美岳CC恵那コースでは、8番ティーイングエリア入口の起伏を平坦に整備したほか(上)、9番ティーイングエリア入口の溝を埋める改修(下)を行うなど、バリアフリー対応を推進している



フォレスト旭川CC 歩行経路に手摺を設置し、安全面に配慮した施設整備を実施

超高齢化社会への対応 (朝日コーポレーショングループの取り組み)

営業と予算の両立が必要なため一度にすべては難しいが、10年前から少しずつ着実に進めている
また、各事業所ごとに、可能なことから、安全を最優先に取り組んでいる

■ハード面

- ① フォワードティーの拡充 全部で5〜6箇所
- ② レディースティーやシニアティー或いはレッドやシルバーといった性別や年齢を固定化させるような名称やカラーを使用しない
- ③ コース内のトイレの増設(ハーフで2箇所)
- ④ トイレブース(個室)に緊急ブザーや男性用トイレにもサニタリーボックス(紙パンツ入れ)の設置
- ⑤ インターバルの階段や急坂に滑り止めマットや手摺りの設置
- ⑥ 河川コースを除き電磁誘導(リモコン式)カートの導入
- ⑦ 浴槽に手摺りの設置
- ⑧ 血圧計の設置
- ⑨ AEDの設置

■ソフト面

- ① ポータースタッフの配置
- ② 掲示物の文字の大きさ
- ③ テーブルオーダーや自動精算機の操作のフォロー
- ④ 食事のリクエスト(ライスの量や麺の硬さ)
- ⑤ クラブ内サークルで仲間づくり
- ⑥ 認知症予防等のレモングラス(ハーブ)の試験栽培(足利、東我孫子美岳守礼)
- ⑦ 緊急時用のお客様情報(血液型、持病、常備薬、緊急連絡先等)の提出依頼但し個人情報保護法の観点から現在中止している
- ⑧ 毎年の救急救命講習の受講

—— 新しくつくったティーイングエリアを使用されている方はどのくらいいるのでしょうか。

手塚 来場者の約1割がオレンジを、約2割の方が水色を使っています。意外とみなさん前方からプレーされているのです。私自身、病気の後はドライバーの飛距離がせいぜい160ヤードになってしまいましたが、水色からだといふショットをすればパーオンしてパーディパットが打てますからね。まったく届かない距離だと楽しみが減ってしましますが、これなら飛ばなくても楽しめます。それに、ティーイングエリアを前につくったことで、総距離が4,000ヤード台になりますから、「もう18ホールプレーするのは無理だよ」と言う年配の方も回り切れるようになると思っています。初心者も同じで、前からなら気楽に回れるのではないのでしょうか。昔はみんなが同じところから回るのが当たり前でしたけど、そんなイメージを変えていければいい。競技は厳しくてもいいですけど、一般の方が楽しむためにはゴルフというものの定義をもう少しソフトにしてあげたほうがいいのかと思っています。

—— ティーイングエリアの選択肢が増えることは女性にとってもうれしいことのように感じます。

手塚 以前、倉本昌弘プロと適正なティーイングエリアについて話す機会がありまして、アスリートがドライバーと7番アイアンで乗るパー4があるとすれば、一般男性ゴルファーや女性もドライバーと7番アイアンで乗るところにティーイングエリアを設けるのがフェアだという話になりました。ところが、実際のレディースティー

はレギュラーティーの少しだけ前にあることが多い。それでは平均的な飛距離の女性にとってはきついわけです。いいスコアが出ないから面白くなって足が遠のくことがあるかもしれない。ゴルフ人口を増やすには女性のプレーヤーをいかに増やすかがカギですから、もう少しゴルフ界全体がうまく対応していればいいのと思っています。

—— 確かにゴルファーを増やすことはゴルフ界の大きな課題です。

手塚 ゴルフ場経営側から言わせていただくと、従業員不足も課題になっています。ゴルフ場がある地域は過疎化が進んでいるところが多く、そういう地域は給料を上げてでも休みを増やしても従業員が集まらない。お客様の取り合いどころか従業員の取り合いになっているのが現状です。もはや日本の中で確保するのが難しいですから、日本ゴルフ場経営者協会でもベトナム国立農業大学と提携して日本でコース管理の仕事をする人材を送ってもらっています。昨年、当協会でも8名採用して、内2名が当社に入りました。日本語はまだ片言ですが、まじめで向上心が強く、グリーンキーパーも喜んでくれています。

—— 実行されている様々な取り組みは日本のゴルフ界が抱えている諸問題を解決する糸口になるような印象があります。

手塚 ゴルフへの平均的な関わり方は20年前、30年前と比べると変わってきています。それなのに、同じ考え方でゴルフをとらえていては誰も見向きしなくなってしまう。ゴルフへの入り口をもっと入りやすいものにしないと、なかなかゴルフ人口は増えないと思います。高齢者に目を移せば乗用カートの普及でリタイアまでの年数は伸びたと思います。ただ、それだけではなくこちらから楽しみ方を提供してもっとコースに足を運んでいただけるようにしたい。ゴルフをしながら仲間と会話をすることが老化防止に、ひいては医療費を抑えることにも役立つのではないのでしょうか。ゴルフはさまざまな人たちが集まってワイワイできるスポーツ。こんなにいいスポーツなのですから、もっと身近に感じてもらうためにできることはまだあるはず。JGAにも今以上に声を上げていただいて、みんなでやっていこうとなればいい方向に進めるとしています。

—— ありがとうございます。

東我孫子カントリークラブ ゴルファーを増やすためのさまざまな取り組み



東我孫子CC 柿沼正浩支配人

東我孫子カントリークラブは朝日コーポレーショングループの中でも早くから5種類のティーイングエリアを設置したコースである。最も距離がある青で6,498ヤード、最も短いオレンジは4,550ヤードの設定。新たにつくられたティーイングエリアは上り下りしやすいように高さを抑え、なおかつ周囲の傾斜は緩やかになっている。

従来、女性ゴルファーはレディースティーでひとくくりにながれがちで、「男性にはシニアティーがあるのに女性にはなぜないのか」という声があったという。オレンジからなら、ほとんどのパー4は200ヤード台。年齢を重ねて飛距離が落ちたゴルファーもパーオンを目指して楽しめる。



クラブ内サークルの一環として、従業員に挑戦する企画を実施。勝てばポイントを獲得

プレーの楽しさを提供する企画も多い。高齢者がプレーしなくなる理由のひとつに、友人が亡くなるなどでゴルフ仲間が減ってしまうことがある。「そういう方をつくらないためにも、クラブ内サークルという名称でメンバー同士が集まりやすくするさまざまな催しを実施しています」(手塚氏)。東我孫子カントリークラブの柿沼正浩支配人は「喜寿の会など年齢別のものや、ペアマッチ、従業員に挑戦して勝てばポイントをもらえるという企画もあります。それに、自分の飛距離に合ったティーイングエリアを選択できますから、年代差を埋めてみんなでクラブ内サークルを楽しめる。メンバーさんには好評を得ています」と話す。ひとりでも参加しやすい環境をつくり、ゴルフからのリタイアを食い止めているわけだ。